

日本都市社会学会ニュース

NO. 106 (2017. 3. 31)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学教育学部・山口恵子研究室内

e-mail: usocio@urbansocio.sakura.ne.jp fax: 042-329-7429

URL: <http://urbansocio.sakura.ne.jp/>

(振替口座：00140—4—703976)

日本都市社会学会 第35回大会

歓迎の言葉

浦野 正樹（早稲田大学）

日本都市社会学会第35回大会を、2017年9月9日（土）、10日（日）の日程で、早稲田大学戸山キャンパスにて開催させていただくことになりました。

日本都市社会学会は、都市社会を社会的な視点から研究する専門研究者集団として発展してきた学会です。これまでの研究蓄積を踏まえ現在の都市課題を挑戦的に討議する学会大会に貢献できるよう、精一杯準備させていただきます。ぜひ多くの学会員の皆さんに参加していただき、充実した大会になることを願っております。

早稲田大学には、学部の拠点として、早稲田キャンパス（本部キャンパス）、戸山キャンパス（文化構想学部・文学部）、西早稲田キャンパス（理工学部）、所沢キャンパス（人間科学部他）があり、それぞれに社会学の専任教員がおります。今回は、交通や教室利用の利便性を鑑み、文化構想学部・文学部のある戸山キャンパスでの開催となります。東京駅（大手町）から地下鉄東西線に乗れば約10分で最寄りの早稲田駅に着きます。早稲田キャンパス（本部キャンパス）へも数分で行けますので、大隈講堂や大隈記念庭園なども散策していただき、早稲田大学の雰囲気味わっていただければと思います。今回の大会が行われる戸山キャンパスは、かつて第一・第二文学部が置かれており、それが2007年に再編されて現在の文化構想学部と文学部が発足しました。社会学の教員もその両方にほぼ半々ずつおります。大学院と教員組織は同一で、学部の授業は、演習系科目は学部ごとに別メニューとなりますが、講義科目に関しては両学部共通で、緊密な連携関係にある二学部として運営されております。

戸山キャンパスでは、かつて東京オリンピックの競技会場となった記念会堂が全面改築工事中です。大会会場はその様子を上から眺めるかたちの場所（36号館）にあります。工事のため騒音などでご不便をかけることもあるかも知れませんが、できるだけ静穏な環境を整えるよう努力いたす所存です。なお、大会当日は、東京では例年まだまだ残暑の厳しい時期でございます。熱中症なども懸念されますので、適宜水分補給や健康などに留意していただき、会員間の有意義な討議が活発に行われるよう願って、お迎えの挨拶にかえさせていただきます。

大会案内（会場・交通・宿泊）

1. 期間および会場

期間：2017年9月9日（土）～9月10日（日）

会場：早稲田大学戸山キャンパス 36号館（〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1）

<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

食事：大学周辺の飲食店が多数ありますので、それらをご利用ください。

懇親会についても、大学内の施設を利用する予定です。

2. 交通のご案内

地下鉄東京メトロ東西線、早稲田駅から徒歩5分（地下鉄早稲田駅から戸山キャンパスへの経路は、穴八幡の鳥居と交番が角にある十字路が目安になります。）会場は、戸山キャンパスのスロープを上がり、最も高い33号館の右手にある建物（36号館）になります。詳しくは、上記の戸山キャンパスのホームページを参照ください。

3. 早稲田大学戸山キャンパス

詳細な会場案内図は、「日本都市社会学会ニュース」（7月号）に掲載させていただきます。



4. 宿泊のご案内

宿泊については各自でご予約いただくこととなりますが、最寄りの高田馬場駅にはビジネスホテルが一軒（「ホテルサンルート高田馬場」）しかなく、早期に予約が埋まってしまうことが予想されます。また近年、都内中心部のホテル予約が全般的に難しくなっております。上記の交通案内や早稲田大学ホームページのアクセス案内等を参照いただき、乗り換えが少なくて済む東京メトロ東西線・JR山手線沿線などをご検討ください。

5. 部会における機器使用について

会場には、プロジェクタとパソコン接続用ケーブル（Mini D-Sub15ピン）が備わっております。利用をご希望の場合には各自でパソコンをご持参ください。Apple社製パソコンを使用する場合には、専用の変換アダプタも各自でお持ちください。

パソコン等を使用する場合には、開始15分前に会場にお越しいただき、各報告・セッション参加者と協力・相談のうえ、接続および動作確認をお願いいたします。また、テーマセッション、研究チームでのご報告のような場合には、円滑な進行を図る意味でも、機器使用について事前に報告者間で連絡・調整をお願いいたします。

大会企画（企画委員会報告）

企画委員会では現在、第35回大会に向けて、従来からの「シンポジウム」に加えて、新しい試みとして「ラウンドテーブル」セッションを企画しております。

今回のシンポジウムについては、「コミュニティ論のモダンパラダイム再考—日本の近代とアジアの現代—」（仮）をテーマに開催いたします。これは昨年度の特別セッションでの議論を引き継ぐ形で企画されたものです。そこでは、鈴木広先生、奥田道大先生の業績を検討してきましたが、その議論のなかで、お二人の世代のコミュニティ論の時代拘束性、言い換えると日本のコミュニティ論が前提とする「モダンパラダイム」について議論となりました。企画委員会ではその点を、アジア諸国におけるコミュニティ論を研究されている方からの報告を通じて相対化していきたいと考えて、このような企画を立てました。こちらは大会二日目の午後に開催を予定しております。

もう一つのラウンドテーブル形式のセッションは今回新たに企画されたものです。これは、一つのテーマに対して5～6名程度の話題提供者に議論の口火を切っていただき、その後は会場参加者も交えて活発に議論をしていくものです。その狙いとしては、学会として共有すべき新たな課題を探索するためにはフロア参加型のセッションの方がいいだろう、という考えからです。こちらは大会初日の午後に開催を予定しております。

今回ラウンドテーブルのテーマとして、「(1)都市／ストリート」「(2)都市／社会運動」という二つを設定いたしました。話題提供者の募集については下記の説明文をご参照ください。

以上、今大会の大会企画の概要を紹介いたしました。詳しくはそれぞれの説明文をお読みいただければ幸いです。

（企画委員会委員 高木竜輔）

ラウンドテーブル1, 2

【話題提供者募集】

【趣旨】 このたび、会員、特に若手会員の研究交流と多様な論点を創発的に生み出すことを目的として、大会初日の午後に「ラウンドテーブル」を企画することにしました。このラウンドテーブルでは、出席者の方には、原則的に部会を移動することなく2時間半の議論を共有し、積極的に議論に参加していただく

ことをお願いすることとなります。初回となる 2017 年度は、「都市／ストリート」と「都市／社会運動」の2つのラウンドテーブルを開催します。論点提示のため、それぞれのテーマに関して、5分程度でラウンドテーブルの序盤に話題提供いただける会員を募集します。これは、自由報告部会やシンポジウムでのご報告のような形ではなく、レジュメや報告資料の準備は要さずに（必要に応じて、パワーポイントでの画像等を提示していただくことを排除するものではありません）、5分程度の「話題提供」として議論の口火を切っていただくものです。それぞれのフィールドで感じていらっしゃる問題意識や、研究報告とするにはまだ至らない論点などを、お話しいただける会員各位のふるってのご参加をお待ちしております。

なお、自由報告部会に登壇予定の方も話題提供者になれることとします。ただし、自由研究部会での報告と同じ内容のトピックでのエントリーは控えください。

応募方法：2017年6月4日（日）午後6時必着。件名に「ラウンドテーブル申し込み」と明記の上、氏名、所属、連絡先、希望するラウンドテーブル名、発言予定のトピックをメールでお知らせください。
申し込み先：日本都市社会学会事務局（usocio@urbansocio.sakura.ne.jp）

・ラウンドテーブル1「都市／ストリート」

「ストリート」という言葉が使われるときそこには、単なる移動のための街路という以上に、創発的な流用による文化・生活実践と、権力による規制と管理がせめぎあう場というような含意が込められている。振り返るに「ストリート」という言葉は、1990年代ごろからまずはポピュラーカルチャーの領域で、次いで都市社会学などの学問領域でも使われるようになったが、たとえば「広場」という空間概念がそうであるように、欧米由来の「ストリート」という言葉の含意を、そのまま日本の街路とそこでの実践に込めることができるかどうか、やや疑問も残る。このラウンドテーブルでは、戦後日本の様々な「ストリート」の使われ方／管理のされ方の具体例を話題提供いただいた上で、現代の日本において「ストリート」を、どう経験的および理論的に捉えてゆくべきか再考する。

・ラウンドテーブル2「都市／社会運動」

社会状況が変化するなかで多様な社会問題とそれをめぐる行動があらわれている。たとえば、東日本大震災以後の反原発の市民活動、安保法制反対を主張する国会前デモ、東京オリンピック関連の都市開発に対する異議申し立て、草の根保守の活動、ヘイトスピーチに対するカウンター行動などである。都市社会学において論ずべき社会運動や市民活動が、都市という空間「において」生じる現象、都市という空間を「争点として」生じる現象、もしくは都市という空間「ゆえに」（もしくは、空間を「活用して」）生じる現象であるとするならば、現代日本においていかなる都市と社会運動・市民活動のかかわりが見られるのだろうか。本ラウンドテーブルでは、現代都市において展開する様々な社会運動・市民活動に焦点をあて、現場の最新の情報、調査方法論上の課題、今後の研究の展開可能性など多様な論点を共有したい。

（企画担当委員 五十嵐泰正・笹島秀晃）

シンポジウム

コミュニティ論のモダンパラダイム再考—日本の近代とアジアの現代—（仮）

【趣旨】 前年度のセッションでは、日本都市社会学の基礎を確立した鈴木広、奥田道大の業績を両氏のコミュニティ論に依拠して検討した。そこで問われたのは、彼らの世代で共有されていたモダンパラダイムである。モダンパラダイムとは何かは所与ではないが、ここではひとまずそれを、西欧近代市民社会を理念的な準拠枠として日本的現実の特殊性を捉えようとする認識枠組のこととして押さえておきたい。今

日ではこうした認識枠組は「時代遅れ」なものみなされ、顧みられることは少ない。その一方で、モダンパラダイムに代わる新たなパラダイムが出現したわけではなく、都市社会学の研究動向は全体として拡散した状態にある印象を受ける。

こうした国内事情とは裏腹に、アジアの発展途上国に目を向けるなら、むしろかつてのモダンパラダイムが新たなリアリティを帯びてきている。かつて西欧との比較において「特殊」とされた日本の経験が、今日のアジア社会の中ではむしろ一定の普遍性をもつようになっているのではないか。ドラスティックな都市化に直面するアジア諸国のコミュニティ研究に対し、かつて同様の経験をしたはずの日本都市社会学は、どのような示唆を投げかけることができるのだろうか。そのような問いかけは、日本の都市社会学が残した歴史的遺産の現代的継承という点で意義をもつものでもあろう。

以上のような考えに立ち、日本都市社会学のモダンパラダイム、その意義や限界を、今日のアジア諸国の近代化やコミュニティ研究への応用可能性という観点から再検討することで、都市社会学の世代間継承や国際化に寄与することが今回のシンポジウムの狙いである。

シンポジウムは報告者3名と討論者から構成される。具体的な人選は未定であるが、およそ以下のような内容を予定している。第1報告では、都市社会学におけるモダンパラダイムとは何かについて、今日の国際的文脈を視野に入れつつ、あらためて学説史的なレビューを行う。第2、第3報告ではアジア諸国の都市化やコミュニティに関する実証的な研究成果に依拠して、都市社会学のモダンパラダイムについて再考していただく。なお、前年度のセッションでは登壇者が中堅、ベテラン世代に偏り、若い世代の意見が十分に反映されなかったきらいがある。そのことの反省を踏まえ、今年度は討論者に若い世代の研究者を優先的に起用し、学会内の世代間交流を図りたい。素直なところ、どういった展開になるのか見通しが立ちにくいチャレンジングな企画である。議論に一定の道筋をつけるため、フロアからの活発な参加を切に募りたい。

(企画担当委員 室井研二)

自由報告の募集

【報告者募集】

第35回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7月発行の「学会ニュース」(第107号)に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。

(1) 自由報告の申し込みおよび報告要旨の提出方法 (締め切り：2017年6月4日(日))

次の①～⑤をA4サイズ1枚に記し、保存した文書ファイルを、6月4日(日)午後6時までに学会事務局 (usocio@urbansocio.sakura.ne.jp)宛に、E-mailに添付してお送りください。添付ファイルは、テキスト形式または「Microsoft Word」形式、ファイル名は「35jiyu ***」(***は報告者の名前をローマ字で入れる)としてください(例 35jiyu yamaguchi)。提出後の内容の修正は、受け付けません。

- ① 報告タイトル(仮題は不可)
- ② 報告者氏名・所属(共同報告の場合は登壇者に○)
- ③ 報告要旨(50字×20行以内を厳守)
- ④ 発表時に使用する機材
- ⑤ 連絡先(郵便番号・住所・電話番号・E-mailアドレス)

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。

(2) 注意事項（必ずお守りください！）

- ・ 共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申し込みを行う前に、入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては、学会ホームページをご覧ください。
- ・ 報告要旨は、「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみで作成してください（学会ニュース1ページに2つの報告要旨を掲載します）。
- ・ この要領に反し、本文が1行50字で20行を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。
- ・ 大会当日にレジュメ／資料を配布する場合は、各自で別途ご用意ください。
- ・ 使用する機材については、会場の都合により不可能となる場合もあります（パワーポイントを使用する場合、PCは持参してください）。

<自由報告申し込みと報告要旨原稿の提出方法>

締 切	: 2016年6月4日（日）午後6時 必着
申込み・報告要旨原稿提出の方法	: E-mailによる
申込み・報告要旨原稿提出先	: 学会事務局 usocio@urbansocio.sakura.ne.jp

（事務局担当理事 山口恵子）

会員の皆さまへのお知らせ

編集委員会報告

- (1) 『日本都市社会学会年報』第35号の編集が進んでいます。特集は「バブル期の都市問題とジェントリフィケーション論」と「鈴木広と奥田道大の都市社会学と現在」を予定しています。
- (2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>)で『日本都市社会学会年報』第33号（2015年発行）までが閲覧できます。学会Webサイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

（編集委員長 西村雄郎）

『日本都市社会学会年報』36号 自由投稿論文・研究ノートの募集について

【募集】

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』36号（2018年9月発行予定）に掲載する「自由投稿論文」、「研究ノート」および「書評リプライ」の原稿を募集します。投稿を希望される方は、『年報34号』（2016年発行）に掲載されている投稿規定および執筆要項をご覧のうえ、審査用原稿（3部）

を2017年11月30日(消印有効)までに、下記の編集委員会事務局宛に郵送してください。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしています。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

739-8521 東広島市鏡山1丁目7-1
広島大学大学院総合科学研究科 西村雄郎研究室内
日本都市社会学会編集委員会事務局
E-mail:nisimura@hiroshima-u.ac.jp

※なお、次回大会での役員交代により編集委員会事務局は移転する予定です。それにともない2017年9月以降は原稿提出先も変更となります。新事務局が決まり次第、学会のWebページやニュース等でお知らせします。それまでにご投稿いただいた論文等につきましては、次期編集委員会に責任をもって引き継ぎます。

(編集委員長 西村雄郎)

国際交流委員会報告

すでにお知らせしましたように、今年度は当方が韓国地域社会学会大会をお訪ねする年度となっております。韓国地域社会学会は、5月12日(金)と13日(土)の両日、釜山のドンア大学で行われます。すでに6名の方が参加する予定で、うち2名の方が自由報告を希望しておられます。昨年の京都大会への韓国側からの参加者にはとてもおよびませんが、これまででない多くの方が参加していただき、双方の交流が益々深まることを期待しております。これからでも間に合いますので、参加したいという方は玉野(tamano@k.email.ne.jp)まで至急ご連絡ください。お待ちしております。

(国際交流委員会委員長 玉野和志)

社会学系コンソーシアム報告

2017年1月28日(土)、社会学系コンソーシアムの第9回評議員会が日本学術会議6階の会議室で開催されました。2016年度の事業報告と決算報告、2017年度の事業計画と予算案について報告/提案がなされ、いずれも原案通り承認されました。「その他」として、加盟学協会の交流・連携を促進する方法について議論した結果、(1)『コンソーシアム通信』および『ニュースレター』については、今後各学会の事務局だけでなく評議員にも直接配信すること、(2)加盟学協会が設けている学会賞の受賞者・受賞作等に関する情報を、『通信』『ニュースレター』およびホームページに掲載すること、が決まりました。また午後には、講堂において「現代社会における分断と新たな連帯の可能性——階層・世代・地域・民族・情報の視点から」と題するシンポジウムが開催されました。

(社会学系コンソーシアム評議員 後藤範章・松菌祐子)

理事会報告

2016-17年度第2回理事会が、3月5日(日)午後3時から滋賀大学大津サテライトプラザにて開催されました。企画委員会担当者より、2017年度大会のラウンドテーブルやシンポジウムの準備状況について報告がなされました。編集委員会担当者より、年報35号の査読状況の報告がなされました。国際交流委員会担当者より、5月12・13日に開催される韓国地域社会学会への会員の参加について報告がなされまし

た。学会賞選考委員会担当者より、第10回日本都市社会学会賞の経過について報告されました。社会学系コンソーシアム担当者より、2017年1月28日に開催された社会学系コンソーシアムの評議員会の審議内容について報告がなされました。事務局担当者より、学会の財政状況や学会大会参加者数の推移について報告がなされました。

主な審議事項として、理事選出にあたっての地域ブロックの変更について議論されました。北海道・東北の負担が大きいことから、この間、理事会において変更案について検討を重ねてきました。現時点では、A案：北海道・東北・北関東（茨城・栃木・群馬）＜23人、会員数以下同様＞、南関東（千葉・埼玉・東京・神奈川）＜129＞、中部・近畿＜90＞、中国・四国・九州＜34＞、B案：東京を除く東日本＜56＞、東京＜96＞、中部・近畿＜90＞、中国・四国・九州＜34＞、などが出ています。総会にて新しいブロック割りを提案したいと考えておりますので、ご意見がありましたら、6月10日までに事務局までお寄せください。なお、第35回大会の理事選挙は、現行の地域ブロックにもとづいて行います。また、近年財政状況が好転していることをふまえ、今後の予算の組み方について議論が行われました。いろいろな意見が出されており、引き続き検討中です。その他、学会ニュースの発行、第35回大会の開催、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

（事務局担当理事 山口恵子）

会員異動

新入会員（2017年3月5日理事会承認）

＜関東地区＞

金銀恵（一橋大学）

＜中部・関西地区＞

クルムズ・メリチ（大阪市立大学）

退会（2017年3月5日理事会承認）

＜中国・四国・九州地区＞

奥野圭太郎（熊本学園大学）

＜海外＞

中須正（チュラーロンコーン大学）

（事務局担当理事 山口恵子）

学会事務局からのお知らせ

◆ 2017年度 会費納入のお願い

学会費の振替用紙を同封させていただきました。2016年度会費を納入していただきました会員の皆様、2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の会費も、できるだけ早めの納入をお願い致します。2013年度より一般会員の年会費が6500円となりました（学生会員は4000円のまま据え置き）ので、お間違いのないようお願い申し上げます。外国籍会員の場合、年会費減額の措置が適用される場合もあります。詳しくは、学会のホームページをご参照ください。

また、2016年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますよう重ねてお願い申し上げます。

なお、本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。振替用紙を使わずに振り込むことができますし、振込記録は事務局宛に送られてきま

すので、事務局が振込を確認することもできます。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合は次の通りです。

銀行名	: ゆうちょ銀行
預金種類	: 当座
店番	: 019
店名(カナ)	: 〇一九店(ゼロイチキュウ店)
口座番号	: 0703976
受取人名	: ニホントシシャカイガッカイ

◆ 第35回大会へのご参加のお願い

次回学会大会は、2017年9月9日(土)、10日(日)の日程で早稲田大学戸山キャンパスにて開催されます。是非ともご参加いただき、大会を盛り上げてくださいますよう、お願い申し上げます。

◆ ご所属先等変更のご連絡のお願い

新年度より、ご所属先やご住所等が変更となる会員の皆様もおられるかと思えます。その場合は、事務局へメールにてご連絡くださいますよう、くれぐれもよろしくお願い申し上げます。

(事務局担当理事 山口恵子)